防災だより
NO.2 (2012. 7)

■桜ニュータウン自主防災組織
知識普及部会

地震！ その時どうする　住民と地域が一体となって

7月14日，広岡交流センターホールでつくば市消防本部中央消防署桜井正昭署長による講演会が開催されました．当日は85人が来場し熱心に聴講していました．

桜井署長の話は，東日本大震災および今年市内で発生した竜巻災害に関して市内の被害状況とそれに対する消防本部の対応と，今後発生が予想される首都圏直下型地震について話とビデオで紹介されました．

その中で桜井署長が強調されたのは，茨城県には大きな被害を出すような地震は来ないと思っていたところに東日本大震災が発生し，その約１年後に竜巻が市内を襲い被害が出たことは，震災の経験をつくば市の消防，市民及び行政がどう生かしたかを試されたようなものであった．

竜巻で被害が一番大きかった北条地区では，災害発生直後から大きな混乱もなく地域住民が復旧活動に当たり，震災の経験から生まれた，地域住民による隣り近所の協力体制の存在が大きかった．

さらに，首都圏直下型地震のような大災害では，防災・減災は住民自身と地域が中心となって行い（自助，共助），災害発生直後から３日間は自力で乗り切ること，消防は公助の一分野として住民による活動の支援を行うという位置づけであることを強調されました．

会員の防災活動への意識の高さ　アンケート調査結果から

会員の皆様には，6月30日に実施したアンケート調査にご協力いただきありがとうございました．

住民の68%から回答を得たアンケート調査の成果は今後報告しますが，ここではこれまでに得られた集計結果を速報として報告します．今回の調査のポイントは，桜ニュータウンが災害に対して一番弱い，災害時の働き手である中年層が不在の「平日の昼間」に災害が発生した，と想定したときの桜ニュータウンの実態を知ることにありました．

その結果，平日の昼間における在住者は約350人（全人口1,380人），このうち援護希望者は約60人，また防災活動への参加可能者は約140人と，援護希望者を除く約290人のうち48%の方が防災活動への参加が可能であることが明らかになり，防災計画を立てる上で貴重なデータを得ることができました．

● 家庭での地震対策（2）　安全な就寝の位置

寝ているときは誰もが無防備です．もし夜，地震が起こったとき，家具が倒れて死傷することがないよう，寝る場所を変えたり，家具を移動したりして，自宅の中でも安全な場所を確保しておきましょう．

十分な距離を取って寝る

家具の側面の方が良い

＊台の上に載せたテレビやパソコンなどは，飛び出す可能性があるので，就寝位置にはとくに注意が必要です．
＊スライド台の書架付きの本棚は安定感が悪いため，就寝の位置からなるべく離しておきましょう．
＊就寝のときは，枕元の暗闇でも手が届く場所に，スリッパ，懐中電灯，呼子（ホイッスル），ラジオを置いておきましょう．
＊家具が倒れて出口を塞がれないように，出入口を確保しておきましょう．

◆ 防災訓練のお知らせ

9月1日「防災の日」に防災訓練を行います．

今回は桜ニュータウンに自主防災組織ができて初めての防災訓練で，内容はある時間に地震が起こったという想定で，災害対策本部の立ち上げと安否確認を主眼とした訓練を行います．

会員の皆様には実施内容の詳細が決まり次第，お知らせします．

◆ 掲示板の設置

自主防災組織では，桜ニュータウン内のゴミ置き場など（11個所）に自主防災組織のシンボルカラーの黄色い掲示板を設置しました．

普段は自主防災組織からのお知らせに，災害時には緊急用掲示板として災害対策本部から会員の皆様への連絡用として活用しますのでご覧下さい．